NEW CROWN　授業実践事例

BOOK 2　LESSON 6　授業例②

K.S. 先生 / T.K. 先生

指導計画表
（全 8 時間）

時間	学習内容・主な活動
1	■とびら ・プレ活動（題材の導入） ■GET 1 ・文法導入 ・本文の導入 ・NEW WORDS ・本文の理解 Q&A
2	■GET 1 ・本文の復習（Retelling） ・音読練習 ・コミュニケーション活動 L ・コミュニケーション活動 S → W
3	■GET 2 ・文法の導入 ・本文の導入 ・NEW WORDS ・本文の理解 Q&A
4	■GET 2 ・本文の復習（Retelling） ・音読練習 ・コミュニケーション活動 L ・コミュニケーション活動 S → W
5	■USE READ ・In-Reading（個別→グループ） ・Post-Reading
6	■USE LISTEN ■USE WRITE 1，2 (1)
7	■USE WRITE 2 (2) ■USE READ Try
8	・海外の名所案内ポスター作成

実践例

1.　LESSON の実践指導例

①とびらのページ

　まずエアーズロックのピクチャーカードに注目させ，生徒の知識や旅行の経験を引き出す英問をなげかけながら，オーストラリアという国にも興味を持たせていきます。世界マップの上で，日本との位置関係などに触れます。実際に行ったことがある生徒がいれば，その思い出を紹介させたり，教師自身もオーストラリアに旅行した経験談を話すことも，この国へのイメージをふくらませることになります。また，大陸発見のエピソード，面積や自然などについて，クイズ形式で生徒に考えさせ，まつわる写真を見せることで，生徒は有名なコアラやカンガルーから，オペラハウス，先住民にいたるまで様々な事柄に大変関心を示します。そして，最後に，一枚の写真を見せます。サンタクロースがサーフィンをしている写真です。この光景を見た生徒からは，驚きや笑いなどさまざまな反応が出ます。当然どんなことがわかるかを尋ねると，手が上がり，日本と南半球にあるオーストラリアは季節が真逆であることを，説明してくれるでしょう。ここで，すでに GET 1 の導入が始まっていることになります。

②GET 1 の文法導入から

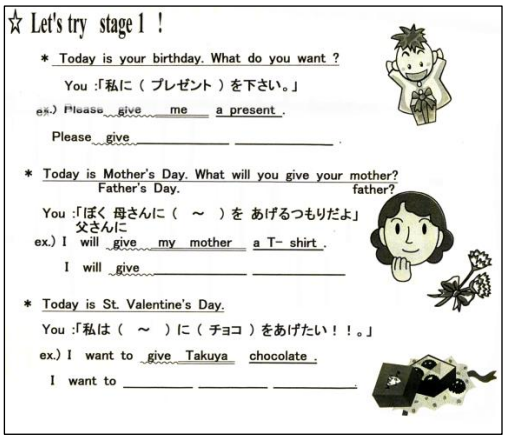
　黒板に貼ってある何枚かのピクチャーカードを指しながら，

I [showed] you many pictures.
My father [gave] me this doll.
　　A　　B

と繰り返し言いながら，「A に」「B を」「～する」のポイントを理解させていきます。さらにこれらの英文を板書して，give, show の動詞の後に注目させ，A と B を目で確認させます。音読の際，A と B に入る語を入れ換えながら列ごとにパターンプラクティスを行うと効果的です。この後，ドリルに取り組ませ，語順に概ね慣れてきたら，自己表現に挑戦させます。ここで大切にしたいのは，単なる英作文ではなく，誕生日や母の日，バレンタインデーなどのように，より身近でリアルな条件を与えることです。例えば，

T: Today is Mother's day ! What will you give your mother, S1?
S1: I will give her some flower.（資料 1 ）

【資料 1】


☆ Let's try stage 1 !

＊ Today is your birthday. What do you want ?
You :「私に（ プレゼント ）を下さい。」
ex.) Please give me a present .
Please give _____ _____ .

＊ Today is Mother's Day. What will you give your mother?
Father's Day. father?
You :「ぼく 母さんに（ ～ ）を あげるつもりだよ」
父さんに
ex.) I will give my mother a T- shirt .
I will give _____ _____

＊ Today is St. Valentine's Day.
You :「私は（ ～ ）に（ チョコ ）をあげたい！！。」
ex.) I want to give Takuya chocolate .
I want to _____ _____ _____.

生徒の作品でユニークなものは，発表させたり，英語科通信で紹介し，読んで reading を楽しみます。

③本文の導入から内容理解

　キャラクター，会話について，ピクチャーカードを見せながら，オーラルインタラクションで表現させていきます。この時，必ず個人→クラス，クラス→個人で復唱させます。目から耳から入る情報を口頭でしっかり表現させたいからです。閉本させたまま健とエマの会話を CD あるいは ALT との会話で聞きます。この時，教科書にあるような英問を 1 つ与えておくと，生徒はその答えを探すことで，リスニングに集中しやすくなります。次に，開本して再度聞きながら内容理解をします。New Words の発音や意味の習得はリズムにのせて行うことで，生徒も音を楽しみながら語彙を増やしていくことができます。内容理解の確認は，クラス全体で Q&A や T or F で行うことが多いです。列対抗や個人戦でクイズ形式にすると，ALT の発問にとても集中します。内容理解をさせた上で，なりきりリーディングに挑戦

します。音読練習は，コーラスで正確な発音やイントネーションを聞きとり，ロールプレーで気持ちや事実を伝える練習をすることができます。この後ペアワークに移しますが，個々のペースでバズリーディングを入れると，ほとんど暗唱して教科書をはずせる生徒が出てくる場合もあります。たとえセリフであっても，そのキャラクターになりきると，自然に写真を持つ手が上がり，”Was it cold?”とたずねるときには，腕をさするしぐさをする生徒もいました。そして，このようなペアワークの発表をクラスで行うことで，豊かな表現をする工夫を自分もやってみようとする生徒が増えていくことになります。

④復習からコミュニケーション活動へ

前時の内容の復習を兼ねて，ピクチャーの内容について，Retelling をさせることは，生徒自身が内容理解をどれくらいできているかを知ることになります。キーワードをヒントとして与えると，取り組みやすくなります。ウォームアップの時に，教科書の Practice の Words と Word Corner の語句を導入しておくと, 次のタスク 1 の Listen が取り組みやすいです。基本的に指示などは全て英語で出すようにし，次のタスク 2，3 Speak & Write では，Q&A を口慣らしした後，ペアワークでそれぞれの場面でのアイディアを表現し合います。ここでも独自の表現がしたくて，和英辞典で調べる生徒の姿もありました。

⑤GET 2 の文法導入から

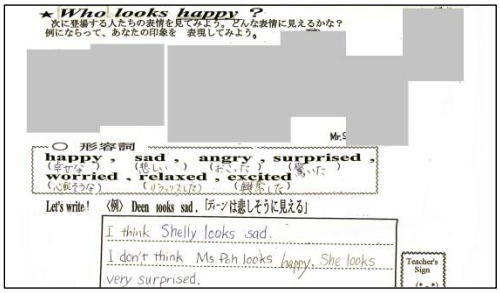
まず，p.67 の Word Corner を使って，感情表現を導入していきます。その後，何人かの人物の顔の表情について ALT や生徒に質問をします。（資料 2）

T1: Who looks happy, T2 (S1) ?

T2: Simon looks happy. / S1: Simon is happy.

生徒の中には，初めこのように「～だ」と答えるものもいますが，「～に見える」との違いをはっきり気が付かせることができます。 look(s)～（形容詞）を理解し，表現に慣れるだけでなく，お互いの持つ印象の相違を楽しむこともできます。また，ケーキやお寿司，動物などの写真を用いて，感情以外にも delicious, pretty などにも使えることを体感させていきます。

【資料 2】

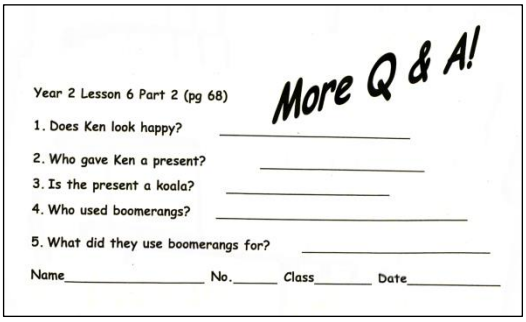


⑥本文の導入から内容理解

GET 1 同様，ピクチャーカードを使って，オーラルインタラクションで場面の理解を促していきます。この時，健の表情や持っているものに注目させリスニングの英問をしながら，本文の大意をつかませます。この場面では，健がもらったブーメランとオーストラリアの原住民との関わりを想像しながら，本文の会話を聞くことになります。’for hunting’ の部分に生徒たちが反応しているのがわかりました。さらに New words の習得を行います。本物のブーメランにじかに触れさせることで，生徒は狩りの真似をして見せたり，興味を高めているのがわかりました。

内容の理解を確認するため口頭での Q&A のほかに，「More Q&A」にトライさせ，5 問程度の英問英答をとおして本文の理解度を測ることができます。苦手意識を持ったり，取組みに差がでないように，全体で確認する前に協習をさせています。（資料 3）

【資料 3】



⑦復習からコミュニケーション活動へ

本文のフィードバックを Retelling や Practice の

Listen で行い，look ～，give A + B のポイントを再度確認することもできます。この Speak & Write の活動内容は，定期的に実施している「1 minute Chat Q&A」の中に取り入れ，既習のものとともに，コミュニケーション活動を行っている。ALT とのデモンストレーションを聞かせた後，4～5 問の Q&A のモデル練習をします。本番では，生徒は自己表現に挑戦しペアワーク終了後，会話の内容を思い出して書かせます。

I feel angry when I am hungry. Kazuki feels angry when he is sleepy.

何人かの生徒にリポートさせることもします。そうすることで友だちの考えについて，さまざまなリアクションを得られることができました。ここで「聞く」,「話す」,「書く」,「読む」の 4 技能を使って表現活動が統合できたことになります。

⑧実践の振り返り

新出の文法の導入場面も本文の導入や words の習得の際も，常に心がけていることは，提示する対象にリアルな臨場感を持たせることです。自分たちがよく遭遇する場面や，興味関心を引く話題や言語材料を使うように設定することで，日本語を介さずに英語を英語で習得しやすいことが，生徒のリアクションや毎時の学習目標と振り返りを書かせている CAN-DO カードの内容からもよくわかります。今後の課題として，中学 1 年生のうちから，自らさまざまな語彙を input しようする態度を身につけさせ，output を，失敗を恐れずにやってみようという意欲をもっと育てていきたいです。

2.　USE READ の指導事例

①Pre-Reading

すでに GET 1, 2 でオーストラリアの気候や日本（北半球）との違い，先住民族の生活について簡単にふれています。ここでは Australia Quiz を行い，オーストラリアについての背景知識をさらに広げていきます。設問は，GET の復習を含む簡単で一般的なものから，あまり知られていない雑学まで，これから学習する Uluru や the Anangu への興味につながるようなものを用意します。the Anangu の絵や楽器，Ayers Rock の色が変わっていくようすを写真や動画で紹介すると，興味をもって Reading の活動に入ることができるでしょう。その際に，主な New words を取り入れて紹介しておきます。

②In-Reading

Reading への意欲づけができたところで，いよいよ内容の読み取りに入ります。まとまった英文を自力で読む力をつけたいという観点から，まずは各自で読ませます。1 回目は，固有名詞や New words, Key words に線を引き，教科書 In-Reading の 1 に答えて全体の概要をつかめるようにします。2 回目は，教科書 In-Reading の 2 と Check を活用し，より正確に内容を理解できるようにします。

この題材は「オーストラリアの観光地について書かれた新聞のコラム」であり，観光地の紹介とともに「観光客が気をつけるべきこと」についての筆者の意見を読み取ることが重要です。そこで，3 回目は In-Reading の 3 に答えるとともに，筆者が一番伝えたかったメッセージを文中から探し，下線を引かせます。

このように段階的なタスクに取り組むことにより，大まかに→より詳しく→主旨を自分の力でつかむことができるようにします。それぞれの段階ごとに，各自で取り組んだ後にペアまたは 4 人程度の小グループで答えの確認や意見の交換を行います。グループで教え合い，学び合うことで，より理解が深まり，自信をもつことができます。その後，クラス全体で意見を出し合う時にも，活発な意見交換ができるようになります。

③Post-Reading

Post-Reading では，本文の内容と筆者の意見を理解した上で，自分自身の意見を持つことを目指します。パンフレットを読んだ 3 人の生徒の意見を聞き，自分の意見により近いものを選び，理由とともに発表します。In-Reading と同様に，各自で意見をまとめた上で，ペアや小グループで話し合うことで，より活発な意見交換をすることができるでしょう。

3.　USE Listen の指導事例

初めてイギリスに来た徹と，ロンドンの空港に迎えに来てくれた友達との会話です。英文を聞く前に，

世界地図を見ながら地名と位置の確認をしておきます。1 回目の LISTENING（教科書のタスク 1），地図上の◆を結び，徹がロンドンにやって来た経路をたどります。2 回目の LISTENING（教科書のタスク 2）では，4 つの質問に英語で答えます。英文を聞く前に，先に質問文に目を通しておくとよいでしょう。聞きながら簡単にメモを取り，最終的には質問に対応した適切な文の形で答えることを目標とします。3 回目の LISTENING は総仕上げです。質問に正しく答えられているか最終確認をするとともに，その他に聞き取れた単語や英文をメモしておくと，その後の活動に生かせるでしょう。

3 回目の LISTENING の後 Script を配布して，答えの中心となっている部分や重要な語句，表現を確認しながらタスク 2 の答え合わせを行います。

タスク 3 では，徹に起こった問題をもとに，海外旅行をする人たちへのアドバイスを考えさせます。

3.　USE Write の指導事例

LESSON 6 全体を通して，海外の名所や観光地，歴史，文化，海外旅行が題材となっています。USE Write のねらいは，海外の情報を取り寄せるための正式な問い合わせの手紙を書くことです。教科書のタスク 1 で「問い合わせ」「お願い」の表現を理解するとともに，タスク 2 では実際に手紙を書きます。その際に，生徒自身が興味を持っている国や都市を想定し，訪れたい名所やしてみたいこと，旅行の計画を立てるにあたって知りたいことを具体的に考えさせるとよいでしょう。世界の国々の観光局のホームページなど，見ているだけでわくわくしてきます。下書きをチェックした上で，希望者には実際に英語で書いた E-mail で問い合わせをさせてもよいでしょう。英語で返信が来れば，生徒は情報だけでなく，自分の英語が正しく伝わったという喜びも手に入れることができるでしょう。

こうして調べた興味のある国や都市の情報をまとめて，B4 サイズ程度の簡単な新聞を作成してはどうでしょう。LESSON 6 で学習してきた観光地や文化，歴史の紹介（GET1, 2，USE READ），自分で問い合わせて調べたこと（USE Write），海外を訪れるときのアドバイス（USE READ Try，USE Listen）を盛り込み，写真あり，見どころ満載の楽しいポスター新聞を完成させましょう。興味をもって調べ，工夫してまとめた世界の国々について，お互いに発表し合うことで，教室にいながら心はまだ見ぬ広い世界を旅することができるでしょう。